

当院が低線量CT装置を入れたわけ

呼吸器・血管外科 土岐 善紀

左写真中央が筆者

はじめに

昨年12月、当院は最新鋭の「低線量CT装置」を導入しました。さらに本年4月から人間ドックの標準メニューに「胸部の低線量CT検査」を追加しました。特筆すべきは、「有料オプション」だったCT検査を「標準設定」とした点です。詳しくは、50歳以上の受検者の方には初期標準メニューに組み込んでおき希望によって外すことが可能、一方50歳未満の方には初期標準メニューには組み込まず希望によって追加が可能とする選択権を付与しました。料金は同一です。なぜこのような改訂を行ったのか、その目的と経緯について説明いたします。

がんは早期発見、早期診断・早期治療というけれど…

厚労省が公表した統計によれば、2023年のがん部位別罹患患者数では大腸がんが最多であったにも関わらず、部位別死亡者数は肺がんが約7万6千人と第1位でした。肺がんは難治がんといえますが、その最大の理由は早期発見が難しいためです。わが国の胸部検診ではながらく単純X線撮影が行われてきましたが、早期肺がんの多くを指摘できないという報告があります。骨や心血管陰影に隠れる場合や近年増加しているすりガラス陰影を正確に判別できないためです。一方CT検査では高精度な3次元像を得られるため早期肺がんの指摘率は格段に向上します。では、なぜ世界で最もCT装置が普及しているわが国で検診にCT検査が導入されなかったのかという「被爆線量」の問題があるからです。放射線被曝は性腺、甲状腺、骨髄などに一定のリスクがあり、特に若年者には十分な配慮が必要です。

そこで低線量CTに注目が

通常CTの線量が4～5ミリシーベルトなのに対して、1ミリシーベルト以下は一般に「低線量」とされています。そうしたなか当院は、わずか0.3ミリシーベルトの照射線量のCT装置を導入・稼働しました。これは、レントゲンを3枚撮るのと同程度の被ばく量で、北陸の医療機関にあるCTのなかではもっとも

低い数値です。一般に線量が少ないほど画像が粗くなりますが、近年のデジタル画像処理技術の革新によって通常線量のCT画像に近いものを描出できるようになりました。

勇気の出る提言ができました

早期発見を有言実行に移すべく、先述のように低線量CTを50歳以上の方のドック標準メニューに組み込みましたが、そのような中、本年4月25日に国立がん研究センターは、50～74歳の喫煙者と過去喫煙者に対してこれまでの肺がん検診の一部を改め「低線量CTを推奨する」と提言し、複数のメディアを通じて一斉配信されました。この提言は今後、厚労省の「がん検診のあり方に関する検討会」での議論を経て正式なプログラムとして決定される見込みです。私どもが予測、計画、実施してきたことが年齢の区分も含めてぴったりと合致し大変勇気づけられているところです。

これだけでは終われない

さて、発見だけでは終われません。早期診断・早期治療の番です。呼吸器内科ではハイビジョンの最新鋭の気管支ファイバースコープITH-1200を新規に購入し診断精度の向上を図っています。また、私ども呼吸器外科ではこれまでの低侵襲と根治性を両立した完全胸腔鏡下手術の経験を活かして、本年9月、いよいよロボット支援下手術を開始しました。最初の患者さんは術後3日で無事退院と上々のスタートを切ることができました。

ぜひ！

先生がたのクリニックを受診される患者さんはもちろん、先生ご自身も今回ご紹介しました当院のドックをご利用いただきたくスタッフ一同、心よりお待ちしております。

詳しくは↓

人間ドック・検診予約直通電話 076-422-0726
予約受付時間 平日14:00～16:30



研修・講演・学習会のご案内

1. 地域連携の会

※11月の地域連携症例検討会は、地域連携の会として下記のとおり行います。

日 時：11月28日（金） 19：00～

場 所：ANAクラウンプラザホテル富山 3階 「鳳」

内 容：①演題：「デジタルツールは医療連携をどう変えるのか」

富山市民病院 呼吸器外科部長 土岐 善紀

高齢化が急速に進む医療現場において、私たちはこれに適合してゆく柔軟性が求められています。昨年12月、厚労省の「新たな地域医療構想等に関する検討会」での取りまとめでは地域ごとの医療機関機能が提示され、急性期拠点機能とともに高齢者救急の受け入れが大きなテーマになりました。一方、病床の有効利用とDPCの観点からは入院期間の短縮が求められており、受け入れと同時に後方への切れ目のないリレーが質・量ともに重要性を増しています。これまで後方支援では電話とFAXに依存してきましたが、昭和からのオールツールではタイムラグ解消にも限りがあります。

そこで当院では新たなDXツールとして「CAREBOOK」を導入しました。その特徴は、連携する複数の後方施設に一斉打診ができること、電話を待たずに他の連携業務ができること、FAXの誤送信リスクがないことなどが挙げられます。当日はCAREBOOKについて紹介し地域連携の深化を図ってまいりたいと考えております。

「後方連携病院の入院調整～ケアブックを使用しての所感～」

うおざきファミリー病院 地域連携室 村上亜妃子主任看護師

②懇親会

予告

12月、1月の地域連携症例検討会の開催はございません。

次回は令和8年2月の開催を予定しております。ご参加をお待ちしております。

日 時：2月10日（火） 19：00～20：00（ハイブリッド開催）

場 所：当院3階 講堂

内 容：①症例検討 1例（担当）呼吸器血管外科

②ミニレクチャー 1題（担当）呼吸器内科



2. ダイアベティス研究会（旧：糖尿病研究会）

日 時：令和7年11月20日（木） 17：30～18：45

場 所：当院3階 講堂

テーマ：ダイアベティス・デーイベント

講 師：糖尿病看護エキスパートナース

作：病院ボランティア 篠崎 佳子

令和7年度 富山市民病院 地域連携の会 講演会・懇親会のご案内

地域連携の会の開催を下記のとおり開催いたします。今回は、地域の先生方や後方連携に関わる多職種の方々と交流を図る機会になればと考えております。皆様方との有意義な時間を楽しみにしておりますので、ぜひお越しいただきますようよろしくお願い申し上げます。

日 時：令和7年11月28日（金） 19：00～21：00

場 所：ANAクラウンプラザホテル富山 3階「鳳」

会 費：医師10,000円 医師以外5,000円（参加申込が必要です）

内 容：①演題：「デジタルツールは医療連携をどう変えるのか」

富山市民病院 呼吸器外科部長 土岐 善紀

「後方連携病院の入院調整～ケアブックを使用しての所感～」

うおざきファミリー病院 地域連携室 村上亜妃子主任看護師

②懇親会

※12月、1月の地域連携症例検討会の開催はありません。



医療安全管理室のご紹介

医療安全管理室は、病院長の下に設置された医療安全管理部門に所属し、専任の医師3名、専任の薬剤師1名、専従の看護師1名で担当している部署です。

各部署の所属長やリスクマネージャーと協働し、地域の皆様に「安心と信頼」の医療を提供し続けることを目指して、病院組織全体で医療事故を「予防」することを第一に活動しています。

主な活動は、①インシデントレポートの収集、調査、分析、対策立案、②医療安全に関する部門連携、委員会活動、ラウンド、③医療安全に関する指針、マニュアルの整備、改訂、周知、評価、④

医療安全に関する職員教育・研修の実施、⑤医療安全に関する地域連携、調整などです。

また、アドボカシー（患者支援）室の医療メディエーターと連携し、患者さんご家族さんの声を医療に活かすことも重視しています。何かお気づきのことがありましたら、アドボカシー（患者支援）室やご意見箱を通じて、ぜひ、お声をお寄せください。

地域の皆様がより身近に、安心して専門的な医療を受けられるよう、職員一丸となり医療安全に取り組んでまいります。

医師不在のお知らせ

※外来担当日の休診のみ掲載

11月

科 名	医師名	不 在 日	科 名	医師名	不 在 日
内 科	大 田 聡	21日	呼吸器・血管外科	湖 東	14日、19日 26日
	得 能	6日		土 岐	17日
	郷 原	6日		田 邊	13日
外 科	佐々木	11日、21日	眼 科	山田芳	19日、21日
整形外科・関節再建外科	重 本	14日	歯 科 口 腔 外 科	朽 名	14日
産 婦 人 科	生 水	18日	緩和 ケ ア 内 科	中 山	13日
麻 酔 科	松 浦	13日	脳 神 経 外 科	毛 利	14日
精 神 科	長谷川雄	21日		山 野	21日

※その他、急に不在となることがありますので、ふれあい地域医療センターまでお問い合わせください。TEL 076-422-1112 (代) 内線2168

編集後記

スポーツの秋・芸術の秋・読書の秋と、皆様も充実した秋をお過ごしのことと存じます。

先日、友人に誘われ木曽駒ヶ岳へ登山に行ってきた。非常に良い秋晴れとなり標高2,956mの眺望(写真1)は最高でしたが、その代償として酷い筋肉痛となりました。日頃の運動不足を悔いるばかりです。続けて、伊那市名物ソースカツ丼(写真2)で舌鼓。体力回復のためこの豚カツの山にも挑みます。なかなかの強敵でした。

皆様はどんな秋を楽しみましたでしょうか？やることは山積みですががんばって進めていこうと思います。

検査科 寺崎 雅人



写真1 撮影地：長野県駒ヶ根市・木曽駒ヶ岳



写真2 撮影地：長野県伊那市

「れんけいと支援」に関するお問い合わせは、ふれあい地域医療センターまでご連絡ください。送付を希望されない方はお申し出ください。

TEL 076 (422) 1112 (代) / FAX 076 (422) 1154

メールアドレス fureairenkei@tch.toyama.toyama.jp

ホームページ <http://www.tch.toyama.toyama.jp/> がん何でも相談室：メールアドレス shien@tch.toyama.toyama.jp

